

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています  
広報広聴課 ☎51-0123 内線2822へ御連絡ください

## 三年連続全国優秀賞受賞！富士高新聞部



ふじ



富士高新聞部が発行している「富士高新聞」が、全国高校新聞コンクールで見事三年連続の優秀賞に輝きました。今回受賞した「富士高新聞第173号」は、十二ページ立てで、内容はNIE（教育に新聞を）活動、富士高はその指定校）、クローン人間、青年心理についてなど盛りだくさん。中でも、青年心理について「遊び、人間関係、モラル」の観点から問題提起をしている記事が、学校新聞の役割を果たしているという高い評価を得ました。

富士高新聞部の部員は、現在八人。年四回発行の「富士高新聞」とワープロ新聞「かぎろひ」を制作しています。

部員の皆さんは、「受賞した新聞は、企画の段階から何回も話し合いをしながら、みんなできくり上げたもの。制作期間は二カ月で、毎日遅くまで編集していて、締め切り近くには寝る時間もないほど…。でも、少ない

なごやかな雰囲気  
で企画内容を議論



富士高新聞部の皆さん

人数でよくできたとお思います。新聞づくりは、取材を通して、生徒だけでなく専門家など目上の人と触れ合うことができ、新たな世界が広がります。また、私たちが一人の記者として見てくれるときもあり、とてもうれしいですね。これからは、楽しみながらみんなに読んでもらえる新聞をつくっていききたいと思っています」と話してくれました。

★富士高新聞バックナンバー募集→P11



自分と同じ障害を持つ人のために車いすを寄贈

## じこう 塚本 慈光さん

(一色)



**塚** 本さんは、昨年十二月、社会福祉協議会に貸し出し用の車いすを寄贈しました。塚本さんは、五年前の大学一年生のとき、ラグビーの練習試合で頸椎を脱臼骨折。その事故のため、首から下に麻痺が残り、車いすの生活を送っています。

「まだ入院中で体が動かなくなり詰まっていたころ、車いすに乗って外の風に触れたところ、ほっとした気分になりました。そして、自分と同じように身体の不自由な人にも車いすを利用してほしいなと感じるようになりました」と話します。そんな

とき、おばの田中ヒロ子さん（鈴川東町）に「プルタブを集めると車いすをもらえるんだってね」と言ったことがきっかけで、田中さんと親戚の皆さんによるプルタブとアルミ缶の回収が始まりました。その活動は、田中さんの仲間や町内の人たちにも広がっていき、二年間の活動で念願の車いすを手に入れました。

塚本さんは、「自分の思いが伝わって、自分とは面識のない人たちまで協力してくれたことがとてもうれいすですね。しかも、今後も活動を続けてくれると言ってくれています。急に体が動けなくなつて、つらい時期もありましたが、自分は家族に恵まれ、前向きな気持ちになれました。そして、今つくづく感じることは、健康が一番ということですね。皆さんにはぜひ体を大切にしてほしいと思います」と話してくれました。



車いすの寄贈で感謝状を贈られた塚本さん